

2 授業改善に向けた手立て

道徳的実践意欲と態度を育てるためには、自分との関わりの中で道徳的価値を捉え一人一人が自分の考えを表出できることが必要であると考え。考えを表出するためには、考えを書く活動を効果的に取り入れた授業の中で、自らの考えを深めたり整理したりすることが大切である。

児童は自分の考えを基に友達のことを聞いたり、比較したりして意見を交流する中で、更に考えが深まったり、自分の考えを整理したりすることができる。そこで考えを書く活動を重視し、自分との関わりで道徳的価値を捉えられるよう、以下の2点を手立てとし、授業改善を図ることとした。

手立て 自分との関わりで道徳的価値を捉えるための書く活動を重視した授業展開

①視覚的効果を生かしたワークシートの工夫

②登場人物の立場で書く手紙形式の導入

手立て①視覚的効果を生かしたワークシートの工夫の一つとして、複数の登場人物の心情を比較できるようにイラストや吹き出しを入れ、視覚的効果をねらう。これにより登場人物の関係性が分かりやすくなり、登場人物の心情を的確に捉えることができる。また、児童全員分の事前アンケートを基にした価値の捉えをワークシートに載せておく。これにより、児童は授業中の価値の捉えと見比べることができ、振り返ったり、考えを深めたりすることができる。と考える。

手立て②では、登場人物の立場で手紙を書かせる活動を取り入れる。他人の立場で手紙を書くことで、本音を引き出すことができ、自分を投影した価値の捉えが表出される。このことにより道徳的価値を自分との関わりとして捉え、考えを整理し、振り返りにつながることができ、道徳的実践意欲と態度を育てることにつながる。と考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 手立て①では、複数の登場人物の心情を比較できるようにイラストや吹き出しを用いたワークシートを作成することにより、児童はどこに何をか迷うことなく、自分の考えや友達のことを書く活動に取り組むことができた。また、事前アンケートを載せたことで視覚的にも一目で心情を比較することができ、登場人物の心情の変化や、葛藤などを的確に捉えることにつながった。さらに、終末における書く活動のための時間を十分確保することができた。
- 手立て②では、価値の捉えを共有させ、登場人物の立場で手紙を書かせることで、自分との関わりを想起させ、自分との関わりとして価値を捉えた手紙を書かせることができた。それにより、終末にはねらいとする道徳的価値を自分との関わりで捉えた振り返りをすることができた。道徳的価値について単なる知識としての価値理解でなく、児童自身の生活経験の中で価値を捉え直させることができ、より良くしていこうとする実践意欲につなげることができた。

2 課題

- 活動に取り組ませるための書く時間を十分取れるよう、ねらいや資料に合った適切な授業展開を検討することが課題である。
- 書く活動によってどのようにねらいに迫るのか、どんな場面で取り入れるのか、十分に検討し、書く活動に適した授業を計画的に位置付けていく必要がある。

実践例

- 1 主題名 自由と責任 内容項目 A-1〔善悪の判断、自律、自由と責任〕
資料名 「うばわれた自由」（出典 私たちの道徳 5・6年）

2 主題及び本時について

(1) 価値観

第5学年及び6学年の指導内容項目A-1〔善悪の判断、自律、自由と責任〕は「自由を大切にし、自律的に判断し、責任ある行動をすること」となっている。自己を高めていくには何物にもとらわれない自由な考えや行動が大切であるが、自由には、自分で自律的に判断し、行動したことによる自己責任が伴う。自分の自由な意志によっておおらかに生きながらも、そこには内から自覚された責任感の支えにより、自ら判断し、実行するという自律性が伴っていなければならない。

本主題は、自由と自分勝手との違いを知ったり、自由だからこそできることやそのよさを考えたりして、自由の持つ意味やその大切さを実感できるようにすることがねらいである。

(2) 児童観

本学級は学習に対して意欲的な児童が多いが、学ぶ姿勢はやや受け身で、学習課題を自分のこととして捉え、主体的に考えたり深めたりする学習については、やや抵抗を感じる児童が多い。

事前のアンケートでは、「自由とはどのようなものか」という質問に対し、「何でも好きにできる」、「何をしてもいい」、「好きなときに好きなだけ好きなことができる」、「ルールを決めないでやること」、「のびのびできる」などの意見が上げられた。全児童が「うれしい」や「楽しい」などの良いイメージを持っていることが分かった。ねらいとしている自由の持つ意味やその大切さを意識している児童は少なかった。

(3) 資料観

本資料では、わがままな王子ジェラルと森の番人ガリューのやり取りを通して、「本当の自由」について考える。自分の思いのままに行動することが自由であると思っているジェラル王子に、森の番人ガリューがその考えの誤りを諭すが、ジェラルは全く聞き入れず、ガリューをろうに入れてしまう。その後王となったジェラルは、国内の乱れが元で自身も捕らわれの身となり、改めて本当の自由の大切さについて考える。

ジェラルとガリューのやり取りを通して、自分の生活を振り返り、自由の大切さと、自ら判断し、実行するという自律性の意義について考えることのできる資料である。

3 本時及び具体化した手立てについて

書く活動において、次のように手立てを具体化した。

手立て①視覚的効果を生かしたワークシートの工夫

「自由」について、授業前の事前アンケートによるクラス全員のイメージを記述したものを入れ、「本当の自由」とはどのようなことかについての児童自身の価値の捉えを比較できるようにワークシートを作成した。視覚的に自分の変容を見ることができ、振り返ったり、考えを深めたりすることができる考えた。

手立て②登場人物の立場で書く手紙形式の導入

ジェラルからガリューに手紙を書く活動を取り入れた。手紙には登場人物を通して、自分を投影した価値の捉えが表出されると考えられる。自分との関わりの中で道徳的価値を捉え、考えを整理し、振り返りにつながることができ、実践意欲と態度を育てることができると考えた。

本時の導入では、自由のイメージについて問い、生活経験の中での「自由」を想起させた。

展開前段では資料の中の「本当の自由」について考え、価値の共有を図った（手立て①）。

展開後段では資料の登場人物の立場から手紙を書かせ、価値を自分との関わりとして捉えさせた（手立て②）。

4 授業の実際

導入では、「自由とは何か」を問い、児童のイメージをまとめた。また「『朝来たら自由な席に座っていいです』と言われたらどう思うか」と問い、生活経験の中での「自由」を想起させた。資料の内容を理解しやすくするため、範読をしながら、図1のような登場人物のイラストと言葉の入ったスライドを見せた。

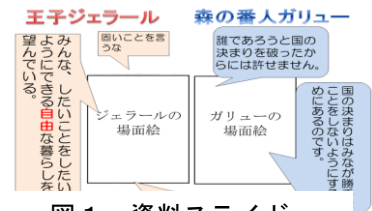


図1 資料スライド

二人の登場人物について確認し、ジェラルール王の考える「自由」と児童が事前に考えた「自由」のイメージが似ていることを確認した。「自由」は悪いことなのかと問い、中心発問へ進んだ。

手立て① 児童自身の価値の捉えの変容を見るため視覚的効果を生かしたワークシートの工夫
 中心発問「主人公のガリユーが言った『本当の自由』とはどういうことだと思いますか。」

展開前段では「自由」について、授業前のクラス全員のイメージを記述したものと、終末で記述したイメージを提示・比較できるようなワークシート（図2）を活用することで、道徳的価値の捉えを共有し、ねらいとする価値についての理解を深めさせた。また、他の児童が発表したことを自分の考えに書き加えたり、まねしたりしてもよいことにした。これにより、自分の考えが浮かばない児童や、自分の考えを言葉にするのが苦手な児童が、友達の言葉から自分の考えに合った言葉を選んだり、新たに思い付いたりすることができた。

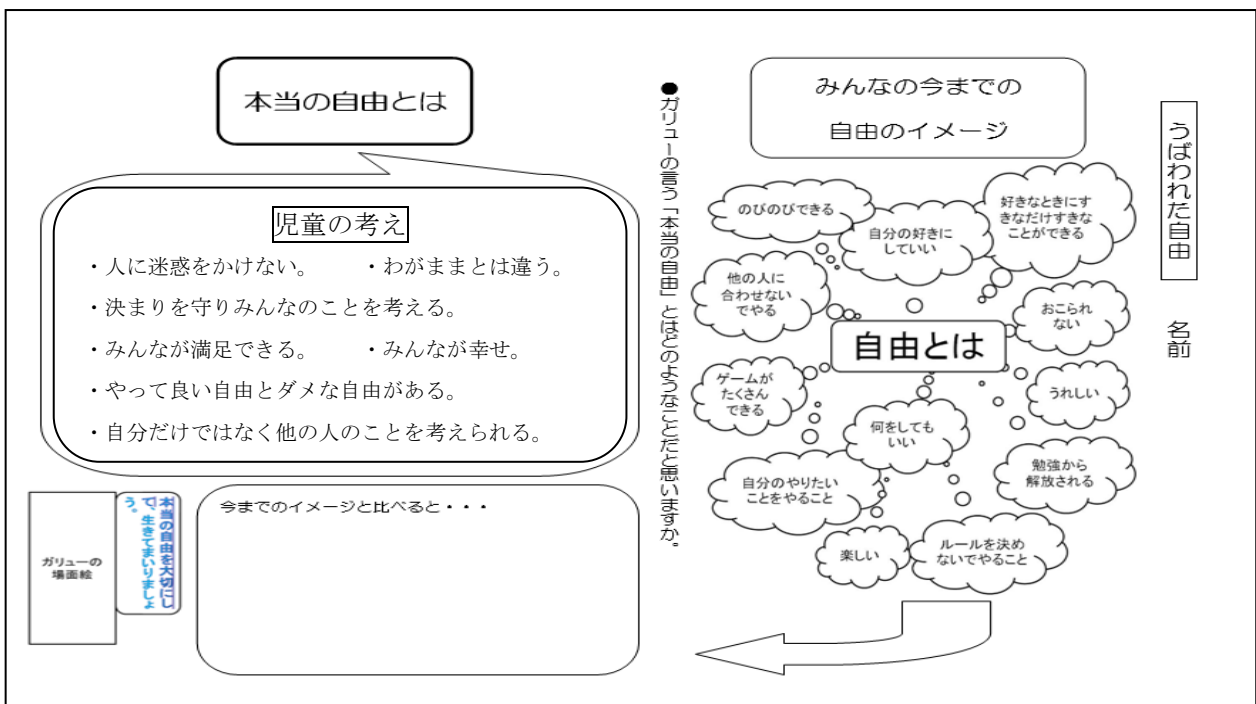


図2 ワークシート

本当の自由の捉えが共有できたところで、次の発問に進んだ。

手立て② 自分と対話をさせるために、登場人物の立場で書かせる手紙形式
 発問「ろう屋の中でガリユーに会ったジェラルールはどんなことを思っていたでしょう。ジェラルールの気持ちになって、ガリユーや国民に手紙を書きましょう。」

展開後段ではジェラルール王の立場で手紙を書かせることで、自分を投影させて「本当の自由」の大切さについて記述することができた。ジェラルールがわがまま放題だったことを謝罪する内容しか書けない児童には、「これからどうしたいか、どんなことが大切だということに気付いたのか」などのアドバイスをした。

児童の書いた手紙

【自由とは「ルールやきまりの中での自由」と捉えた児童】

- ・自由の言葉の意味をよく考えずに自由にしていてごめんなさい。今度からは自由の仕方（決まりを守る、わがままを言わない）に気を付けます。
- ・ありのままの自由になりすぎていたのだと思う。やってもいい自由とそうでない自由があると分かった。ルールや決まりやしっかり守ろうと思う。
- ・あのととき、わがままにしていなければ国は乱れなかった。国を乱れさせないために決まりやルールはなくてはならないと思った。

【自由とは「自分勝手にしないこと」と捉えた児童】

- ・あの言葉を受け入れていれば自分勝手に振る舞いを直し、本当の自由な国を作っていくことができた。ずっと後悔している。これから自分勝手に振る舞いはやめてみんなのことを考えていくようにする。
- ・自分の自由とはわがまま、自分の勝手、やりたい放題かと思っていた。でも、それは悪い自由とは気付いていなかったからだ。人のことを考えていなかった。思い返してみると今は悪かったと思う。

終末では、今までの生活を振り返り、考えたことを記入させた。

発問「今までの生活を振り返り、自由を大切に過ごすためにはどんなことに気を付けなければならないか、あなたの考えを書きましょう。」

児童の振り返り

- ・私は自分勝手なことが多いからみんなのことがもっと見られるようにしたいです。ルールや決まりがある中で、楽しく、自由にできるようにして、みんなの迷惑にならないようにできるようにすることが大切だと思いました。
- ・本当の自由を守らないと人に迷惑をかけたたり楽しめなかったりするということが分かりました。本当の自由は守らないとみんなが幸せになれないのだと分かりました。そして、自分勝手なことをしないようにしたい。
- ・人のことを考えて、人を満足させる、人の幸せは何なのか、自分の幸せと相手は同じなのか、人の心を考えた自由を大切にしようと思った。前に思っていた自由は人に迷惑をかける、人の心を考えた自由を大切にしようと思改めて思った。
- ・私はいつも自分勝手なことが多いので他の人のことをよく考えて行動できるようにしたいです。これからはわがままなどの自由ではなく本当の自由を楽しみたいです。

5 考察

手立て①では授業前の価値の捉えをワークシートに載せたことで、自由のイメージを授業前と授業内で比較することができた。そして、児童の自由の捉えが変容していく様子もうかがえた。自分の価値の変容を一目で比較することができたことで、より深い価値理解へとつなげることができたと考える。

手立て②ではろう屋で一人になったジェラルール王の立場で、森番ガリユーや国民へ向けて手紙を書く活動に取り組ませた。児童が理解した本当の自由の大切さをジェラルール王の言葉で書くことで、本音を引き出し、自分を投影した価値の捉えを書くことができた。

終末の振り返りの場面では多くの児童が自由に対する捉えを新たにすることができ、価値の捉えの変容が見られた。導入で「『朝来たら自由な席に座っていいです』と言われたらどう思うか」と投げ掛けているので、終末でもう一度、具体的な場面でどうするかを考えさせると、より実践意欲につながったと言える。また、授業後の生活の様々な場面での意図的な場の設定により、自分との関わりの中で道徳的価値を捉え、実践意欲や態度を高めていくことにつながると考える。